



インタビュー
Interview

消防活動の中には 大学にはない出会いがたくさんある

輝いている人

市の消防団には、防災士の資格を取得するため消防本部で救命講習を受けた際、女性団員の存在を知って入団した。男性のイメージが強い消防団だが、女性は保育園での防火教室や高齢者宅を訪問して防火診断など

の資格を取得するため消防本部で救命講習を受けた際、女性団員の存在を知って入団した。男性のイメージが強い消防団だが、女性は保育園での防火教室や高齢者宅を訪問して防火診断など

隊であり、総社市の消防団にも所属し幅広い消防活動を行っているのが、県立大学4年の藤川萌寧さんだ。消防応援隊は、消防・防災に関する知識の習得や学内外で啓発イベントなどを行う団体。藤川さんは保健福祉学部で学んでいることもあり、「消防活動を通して実践的に地域福祉を学べる」と思い入隊し、4年間活動

「子どもを支え、良い方向へ引っ張ってあげられる大人になりたい」と力強く語ってくれた。子どもの命と暮らしを守る仕事には、消防活動で培った経験が必ず生きてくるだろう。

大学卒業後は地元の兵庫県に戻り、児童福祉司として児童相談所で働く予定。昔から子どもが好きで、虐待を受けている子を救いたいと思っていて藤川さん。

消防活動をやっている特別な良かったのは、「大学と家の往復では絶対に出会えなかった人たちとつながれたこと」。消防団員や消防職員、地域の子どもや高齢者など、さまざまな人と知り合えたそう。



① マルシェで総社デニムマスクを購入する人
② 30万枚目を購入した前田さんには、総社デニムマスク30枚がプレゼントされた

購入してくれた全ての人に感謝

総社デニムマスク販売枚数 30万枚達成

市内の障がい者就労継続支援事業所が製作する総社デニムマスクが、発売から約1年8カ月で販売枚数30万枚を達成。11月11日に市役所1階セントラルロビーで記念セレモニーが行われ、この日30万枚目を購入した前田元子さん（長良）に記念品が贈呈されました。

セレモニーに合わせてマルシェも開催。弁当やスイーツ、野菜などが販売され、多くの人でにぎわいました。



●ミニフォト

緑の光に臓器移植普及を願う



緑色に彩られた五重塔

臓器移植普及推進月間に合わせ、10月13日から19日までの間、備中国分寺五重塔がシンボルカラーのグリーンにライトアップされました。夜空に浮かぶ幻想的な五重塔の姿に、訪れた人は目を奪われていました。

祭りで地域のにぎわい再び



和太鼓のステージで盛り上げる

10月24日、そうじゃ水辺の楽校で神在地区の秋祭り花火大会が開かれました。環太平洋大学チアリーディング部や備中温羅太鼓のステージイベント、花火の打ち上げなどが行われ、訪れた地域住民らを楽しませました。

自然を感じながら歩こう



クイズの答えが分かるかな

11月6日、総社北小学校を発着とし、吉備路ふれあいウォークラリーが開催されました。市内の親子連れなど34チームが参加。クイズやゲームをしながら約4kmのコースを歩き、秋の総社を満喫していました。

木口さん 100歳おめでとう



家族に祝福される木口さん

11月10日、木口安枝さん（山田）が満100歳の誕生日を迎えられ、11日に市から記念品が贈呈されました。昔から農業をされており、今も野菜を作っているという木口さん。長寿の秘訣は、よく働きよく食べることだそうです。

平和の尊さをかみしめて



忠魂碑横に建てられた慰霊芳名碑

総社宮に戦没者慰霊芳名碑が建立され、11月12日に除幕式が行われました。碑には太平洋戦争などの戦没者1648人を刻字。出席した市遺族連合会員らは、親族などの名前を確認し、平和の大切さを感じていました。

暮らしの中の芸術を楽しむ



旧堀和平邸のガラス作品展示

11月6日から12月19日まで、総社商店街通りでまちなか美術館が行われています。通りや建物にさまざまな芸術作品が展示されており、訪れた人はまち歩きを楽しみながら、のんびりと作品を鑑賞していました。